



入場無料

会場

幌加内交流プラザ大会議室
(バスターミナル 2 階)

※ 深川駅より JR 北海道バス 1 時間 15 分

- ・ 講演 ・ 13:00~14:55
 - ◆「国有林について 一森の役割に関する話を中心に」
鈴木 正勝 (北海道森林管理局計画課)
 - ◆「幌加内町と林業の歴史について」
幌加内町役場産業課
 - ◆「雨龍研究林について」
吉田 俊也 (北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林長)
 - ◆「花粉から見た氷河期以降の森の移り変わり」
高原 光 (京都府立大学 生命環境学部 教授)
 - ◆「朱鞠内湖の森と将来を考える」
永田 素彦 (京都大学 人間・環境学研究科 准教授)
- ・ パネルディスカッション ・ 15:10~16:00
コーディネーター: 吉岡 崇仁 (京都大学フィールド科学研究教育センター 教授)

朱鞠内湖の森林

人と自然のかかわり



2008 年 **11 月 22 日 (土)**

13:00 ~ 16:00 (12:30 開場)

主催: 総合地球環境学研究所環境意識プロジェクト
後援: 幌加内町



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

お問合せ先

〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山 457-4

TEL: 075-707-2461 FAX: 075-707-2513 (齋藤)

シンポジウム「朱鞠内湖の森 一人と自然のかかわり」

開催趣旨

水源涵養、木材生産、そして炭素吸収。森には様々な役割が期待され、それらを持続的に利用してゆくことが求められています。朱鞠内湖に端を発する雨竜川流域はとても豊かな森に恵まれた地域です。これらの森を私たちはどのように利用してきたのでしょうか？ そもそも人が入る前の太古の森はどのような姿だったのでしょうか？ 幌加内の人々は、朱鞠内湖や森をどのように意識しているのでしょうか？

このシンポジウムでは、総合地球環境学研究所(京都市)が朱鞠内湖や北大・雨龍研究林で進めてきた研究成果も交えながら、人、自然、産業、歴史、様々な角度から身の回りの森に思いを巡らし、それらの将来を考えるきっかけにしてゆきたいと思えます。

プログラム

第1部 講演 13:00~14:55

- 13:00~13:05 開会あいさつ
関野 樹 (総合地球環境学研究所 准教授・環境意識プロジェクトリーダー)
- 13:05~13:30 講演① 「国有林について 一森の役割に関する話を中心に」
鈴木 正勝 (北海道森林管理局計画課)
- 13:30~13:55 講演② 「幌加内町と林業の歴史について」
幌加内町役場産業課
- 13:55~14:10 — 休憩 —
- 14:10~14:25 講演③ 「雨龍研究林について」
吉田 俊也 (北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林長)
- 14:25~14:40 講演④ 「花粉から見た氷河期以降の森の移り変わり」
高原 光 (京都府立大学 生命環境学部 教授)
- 14:40~14:55 講演⑤ 「朱鞠内湖の森と将来を考える」
永田 素彦 (京都大学 人間・環境学研究所 准教授)
- 14:55~15:10 — 休憩 —

第2部 パネルディスカッション 15:10~16:00

- 15:10~15:55 パネルディスカッション
コーディネーター: 吉岡 崇仁 (京都大学 フィールド科学研究教育センター 教授)
- 15:55~16:00 閉会あいさつ
中尾 正義 (人間文化研究機構 理事・総合地球環境学研究所 名誉教授)

総合地球環境学研究所 環境意識プロジェクト (主催者) について

本プロジェクトは文部科学省が設立した総合地球環境学研究所の研究活動の一環として行われているものです。プロジェクトでは、朱鞠内湖や北大・雨龍研究林で行われた環境調査、幌加内町内で行われた社会調査や住民会議(本年7月「ふれあいの家まどか」にて開催)などの研究成果に基づいて、人々の環境に対する価値判断と実際の環境との関係を解明したいと考えています。

○研究プロジェクト名: 「流域環境の質と環境意識の関係解明ー土地水資源利用に伴う環境変化を契機として」
(略称:環境意識プロジェクト)

○プロジェクトリーダー: 関野 樹 (総合地球環境学研究所 准教授)

○ホームページ: <http://www.chikyu.ac.jp/idea/>